

## 耳鼻咽喉・頭頸部外科部門の紹介

板橋病院医局長 木村優介

耳鼻咽喉・頭頸部外科は五感のうち、「聴覚・嗅覚・味覚・触覚」の4つ感覚に深いつながりがあります。人が生活する上で、大切な感覚器だからこそ、さまざまなお悩みを持つ患者様が来院されます。患者様のさまざまな悩みに対応できるように、当科では専門外来の充実を図り、それぞれ経験豊富な担当医が診療にあたっております。

### 【専門外来 担当医表】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
AM		腫瘍外来 (中村、御子柴、原)	顔面神経 (岸)	アレルギー (山内、永田)		
PM	耳管外来 (大島、新藤) 中耳外来 (野村、木村)	腫瘍外来 (御子柴、原) 補聴器	音声嚥下 (中村) 神経耳科・めまい (野村)	耳管手術 (大島、平井) 味覚 (田中) 副鼻腔 (菊田、野村)	感音難聴・ 耳鳴・補聴器 (嶋原、木村)	

耳管外来 (月曜午後) : 大島、新藤

耳管手術外来 (木曜午後) : 大島、平井

耳管専門外来では、アンケート・問診・鼓膜の呼吸性動揺の有無・耳管機能検査の結果から耳管開放症の診断を行い、治療は保存的療法、耳管ピン手術を選択しております。難治性耳管開放症に対する外科的治療「耳管ピン手術」が、2020年12月1日に保険適用となりました。「耳管ピン手術」には実施医制度があり、当院では3名の実施医が在籍しており、適応を慎重に判断し、手術をおこなっております。

中耳外来 (月曜午後) : 野村、木村

中耳疾患全般の診断・治療をおこないます。慢性穿孔性中耳炎に対する顕微鏡下の鼓室形成術・鼓膜形成術に加え、症例によって経外耳道的内視鏡下耳科手術 (TEES) をおこなっており、低侵襲かつ術後の創部の回復が早く、患者様

の負担を軽減した手術に取り組んでおります。真珠腫性中耳炎は顕微鏡下の鼓室形成術・乳突削開術を基本とし、遺残・再形成性再発のない手術を目指しております。好酸球性中耳炎や ANCA 関連血管炎性中耳炎などの難治性中耳炎に対しても確実な診断、適切な治療をおこなっております。

頭頸部腫瘍外来（火曜全日）：中村、御子柴、原

頭頸部の悪性腫瘍疾患全般について診断・治療、退院後の経過観察をおこなっております。また外来で実施可能な化学療法にも対応しております。

神経耳科（めまい）外来（水曜午後）：野村

神経耳科（めまい）外来では、難治性のめまいや診断困難なめまい患者さんの診断・治療をおこなっています。他院からのご紹介患者さんも多く、各種の前庭平衡機能検査をもとに診断・治療をおこなっています。難治性の良性発作性頭位めまい症では頭位変換運動療法や生活指導をおこなったり、近年増加している PPPD（持続性知覚性姿勢誘発めまい）や高齢者のめまいでは心療内科やリハビリテーション科とも連携して治療をおこなっています。

音声・嚥下外来（水曜午後）：中村

音声障害はなんでも拝見しています。リハビリテーションを要する症例には関連病院での施行を、すべての音声外科手術は当院で対応しています。経口的にアプローチの顕微鏡下喉頭微細手術、経皮的にアプローチの喉頭枠組み手術はどのような手術でも施行可能です。嚥下障害にたいしては、くりかえす誤嚥性肺炎で生命の危険があれば誤嚥防止術を、経口摂食がご希望ならば嚥下機能改善術を施行します。

顔面神経外来（水曜午前）：岸

顔面神経麻痺の診断および急性期、慢性期治療をおこなっております。予後診断で最重症と診断した症例は顔面神経減荷術、後遺症として異常連合運動、顔面痙攣が残存した症例にはボツリヌス毒素治療もおこなっております。また治癒に至らなかった症例では眼瞼形成術（眼瞼下垂）眉毛挙上術などの静的形成手術を形成外科と連携し行っております。

アレルギー外来（木曜午前）：山内、永田

アレルギー性鼻炎をはじめ原因不明の鼻炎の精査や治療（手術、アレルギー免疫療法、抗体治療を含む）を最新の知見から行っております。その他、鼻腔形態異常や鼻炎に伴う睡眠障害、頭痛、嗅覚障害、好酸球性副鼻腔炎などの患者

さんの診療も行っています。また当院のアレルギーセンターの一翼を担っており、スムーズな他科連携でアレルギーを全身から治療していくよう努めております。鼻炎のみならずアレルギーが関与する耳鼻咽喉科疾患のご相談お待ちしております。

味覚外来（木曜午後）：田中

味覚障害の診断・治療をおこなっております。亜鉛補充療法に加え、漢方治療や栄養指導、認知療法などに取り組んでいます。

副鼻腔外来（木曜午後）：菊田、野村

副鼻腔は眼球や脳など周囲に重要な構造物が存在し、慎重な治療を要します。副鼻腔外来は副鼻腔炎、鼻副鼻腔腫瘍の病態解明を多数の医師で評価することで、治療に結びつけております。治療は必要であれば手術加療の方針と致しますが、患者さんの症状や全身状態にあった治療方針決定を心がけております。好酸球性副鼻腔炎など慢性副鼻腔炎の治療をメインで行っておりますが、涙が目に溜まってしまう慢性涙囊炎の治療も眼科と連携して積極的に行っています。

感音難聴・補聴器・耳鳴外来（金曜午後）：鳴原、木村

補聴器をご希望の患者様に対しては、補聴器適合判定医師による診察の上、十分に試聴していただき、個々のニーズに合わせた補聴器を選択していただいております。両側重度難聴や適切な補聴器を用いても装用効果が十分でない症例に関しては人工内耳埋込術をおこなっており、言語聴覚士が術前よりカウンセリングをおこなっております。

小児難聴は、新生児聴覚スクリーニング後の refer 児に対する精密聴力検査から補聴・療育に関して切れ目のない診療を心掛けており、産科・小児科との連携で refer 児に対する先天性サイトメガロウイルス感染症の診断も可能となりました。3歳児健診における精査のご紹介も増えており、早期の診断に取り組んでおります。

耳鳴外来では、耳鳴再訓練療法によるカウンセリング、必要な症例には TCI による耳鳴の馴化・順応を促していきます。

以上の専門外来で多彩な疾患について、専門的な診断・治療をおこなっております。

最後に日頃より当科に多くの患者様をご紹介くださり誠にありがとうございます。病診連携の会を9月と3月に予定しております。詳細は追ってご報告いた

します。先生方に安心してご紹介していただけるよう、より一層の診療の充実に努めてまいります。今後とも当院耳鼻咽喉・頭頸部外科をよろしく願いたします。